



平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 20 年 1 月 28 日

上場会社名 株式会社シモジマ 上場取引所 東証第一部
 コード番号 7482 URL <http://www.shimojima.co.jp/>
 代表者 代表取締役社長 下島和光
 問合せ先責任者 取締役経理本部長 谷中浩三 TEL (03) 3862 8626

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の業績（平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	35,359	3.8	2,690	10.1	2,885	9.3	1,664	23.0
19年3月期第3四半期	34,077	4.0	2,444	16.9	2,640	16.5	1,352	24.2
19年3月期	44,421		2,968		3,220		1,760	

	1株当たり四半期 (当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	68	66		
19年3月期第3四半期	55	80		
19年3月期	72	62		

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
20年3月期第3四半期	31,777		25,790		81.2	1,063	92	
19年3月期第3四半期	30,331		24,256		80.0	1,000	62	
19年3月期	29,726		24,516		82.5	1,011	34	

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
20年3月期第3四半期	2,408		631		727		6,045	
19年3月期第3四半期	916		601		750		4,040	
19年3月期	399		811		787		5,095	

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金		
	中間期末	期末	年間
19年3月期	15 00	15 00	30 00
20年3月期	15 00		
20年3月期(予想)		15 00	30 00

3. 平成20年3月期の業績予想(平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日) 【参考】

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	46,340	4.3	3,211	8.2	3,538	9.9	2,005	13.9	82.74	

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成19年7月26日発表の業績予想を修正しておりません。上記業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は、添付資料の4頁をご参照下さい。

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期(平成19年4月1日~平成19年12月31日)におけるわが国経済は、企業収益の改善及び雇用情勢の改善など底堅い推移をしておりますが、一方では、原油価格の高騰による原材料高や米国のサブプライム問題による信用不安など、経済に与える不安定要素は多く、最終消費は依然不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社は「お客様のニーズ」に迅速かつ的確にお応えすることを経営理念として商品開発及び提案型営業を展開してまいりました。

営業販売部門におきましては、フランチャイズチェーン政策(「パッケージプラザ」事業)における当第3四半期の新規出店は3店舗、増床を含めたりニューアルを19店舗おこないました。スーパーバイザーによる定期的な店舗指導のほか、統一売出等の販促活動により売上の確保を図りました。ディーラールートでは、生花・園芸及び花材業界への販売が引き続き好調に推移するとともに、食材、製菓・製パンなどの新規販売ルートの開拓も順調に進んでおります。ユーザールートでは、提案型営業及びWebによるB to Bオーダーシステムなどにより、新規・深耕開拓が順調に進み、取引先の拡大及び売上高の増加を達成しております。この結果、営業販売部門の当第3四半期売上高は235億27百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

直営店販売部門につきましては、浅草橋6号館では各種講習会の開催により、関連商材の売上が伸びております。また、昨年2月に開店のプライダルボックス広尾店(渋谷区広尾)は新規顧客を獲得し、売上は順調に推移しております。この結果、直営店販売部門の当第3四半期売上高は118億32百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

これらの結果、全社の当第3四半期売上高は353億59百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

利益面では、海外・国内ともに原紙及び化成品の原料価格の高騰が続いておりますが、販売価格への転嫁等により、全社の売上原価率は改善いたしました。また、販売費及び一般管理費につきましては、小口発送の拡大により物流費が増加しており、さらに新規出店及び改装店舗等で家賃の支払いが増加しております。

この結果、当第3四半期の営業利益は26億90百万円(前年同期比10.1%増)、経常利益は28億85百万円(前年同期比9.3%増)、四半期純利益は16億64百万円(前年同期比23.0%増)となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期の財政状態は次の通りであります。(金額の比較はいずれも平成19年3月期末との比較であります。)

資産の部では、流動資産が16億93百万円増加いたしました。主な変動要因は当社取扱商品の需要期を迎えて売上が増加したこと等により現金預金が9億50百万円、同じく売上の増加により売掛金が10億54百万円、受取手形も1億59百万円、子会社設立費用ほかの仮払金等3億61百万円それぞれ増加し、商品等のたな卸資産が8億49百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は全体で3億58百万円増加いたしました。主な要因は中間期において本社増築工事完成に伴い前期から繰越された建設仮勘定2億33百万円と中間期末までに計上した建設仮勘定1億64百万円の全額を建物ほかの有形固定資産に振替えし、新たに心斎橋ビル改装工事費用2億95百万円を建設仮勘定に計上いたしました。また、空調設備の増加と冷蔵設備の除却等により造作設備、器具備品は13百万円増加し、資産の売却及び除却で78百万円と減価償却費2億90百万円を計上したこと等により有形固定資産全体では1億65百万円増加いたしました。無形固定資産は57百万円増加いたしました。変動要因はのれんが57百万円増加したことによるものであります。投資その他の資産は1億33百万円増加いたしました。主な変動要因は全従業員を被保険者とした福利厚生目的の保険積立金等71百万円、投資有価証券30百万円等によるものであります。この結果、資産合計では20億51百万円増加して317億77百万円となりました。

負債の部では、流動負債が5億19百万円増加いたしました。主な変動要因は売上増加に伴う仕入れの増加により買掛金が5億85百万円増加し、未払法人税等が60百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2億58百万円増加いたしました。主な変動要因は預り敷金保証金が22百万円、年金資産の積立超過分の一部返還等により退職給付引当金が1億87百万円、再評価に係る繰延税金負債が46百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。この結果、負債合計では7億77百万円増加して59億8百万円となりました。

純資産の部では、株主資本が繰越利益剰余金から別途積立金に12億円を振替計上し、配当金等の利益処分を控除した繰越利益と当期間の利益計上額の合計25億54百万円が繰越利益剰余金となり、これらにより株主資本は13億1百万円増加し319億98百万円となりました。また評価・換算差額等是有価証券の評価差額金で12百万円減少いたしました。この結果、純資産は257億90百万円となり、当第3四半期末における自己資本比率は81.2%となりました。

当期中における各キャッシュ・フローの状況と要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、24億8百万円増加(前第3四半期9億16百万円減少)いたしました。主な要因は、収入項目では売上の増加により営業収入が359億8百万円(前期比19億56百万円増加)になったことと、年金資産の積立超過分2億1百万円の戻し入れ、受取利息・配当金等で1億54百万円、賃貸収入その他の収入等7億38百万円の資金が増加したことによるものであります。支出項目では在庫の調整等により仕入れの支出は240億25百万円(前期比11億87百万円減少)、法人税、消費税等の支払額も13億55百万円(前期比4億33百万円減少)に留まり、一方、人件費他の販売費及び一般管理費とその他の支出による資金流出が88億58百万円(前期比6億64百万円増加)となったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、6億31百万円減少(前第3四半期6億1百万円減少)いたしました。これは本社ビル増築及び心斎橋改装工事の一部等の有形固定資産取得費5億30百万円、のれん等無形固定資産73百万円、投資有価証券の取得等53百万円、取引先への貸付金55百万円、その他総額8億7百万円の資金流出があり、貸付金の回収58百万円、保険返戻金等総額1億76百万円の収入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、7億27百万円減少(前第3四半期7億5百万円減少)いたしました。主な要因は期末配当金と中間配当金の支払いによる資金の流出によるものであります。これから、現金等換算差額として外貨預金評価差額金等98百万円を控除いたしました。

これらの結果、当第3四半期における現金及び現金同等物は、前期末と比較して9億50百万円増加し60億45百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

今後のわが国経済は、引き続き底堅い推移をするものと思われませんが、全般的な原料価格の高騰や米国のサブプライム問題による信用不安など経済全般には不安定要素もあり、当社を取り巻く環境は依然不透明な状況にあります。

このような状況のもとで、当社はお客様のニーズに的確に対応できる商品開発や物流システムの拡充、そして営業販売、直営店販売の両面から、販売体制を強化してまいります。

第3四半期において、売上高及び利益につきましてはほぼ予定通り推移しております。原紙及び化成品の原料価格の上昇に関しては販売価格への転嫁で対応いたします。また、為替に関しては、今期の必要金額はすでにほぼ調達済みであり、原価への影響は限定的であります。

この結果、第4四半期におきましても、計画通りの推移を見込んでおり、通期の業績予想は、平成19年7月26日の発表から変更はなく、売上高463億40百万円(前期比4.3%増)、経常利益35億38百万円(前期比9.9%増)、当期純利益20億5百万円(前期比13.9%増)を見込んでおります。

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

たな卸資産、税金費用等につきましては、一部簡便的な方法を採用しております。

(2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5.(要約)四半期財務諸表

[添付資料]

(1)(要約)四半期貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月 期第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月 期第3四半期末)	増 減		(参考)前期末 (平成19年3月期 末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産	16,608	17,756	1,147	6.9	16,063
現金預金	4,040	6,045	2,004	49.6	5,095
受取手形	1,113	1,128	15	1.4	968
売掛金	5,177	4,941	236	4.6	3,886
たな卸資産	5,202	4,609	593	11.4	5,458
繰延税金資産	199	209	10	5.0	191
その他	886	834	52	5.9	472
貸倒引当金	11	11	0	1.8	10
固定資産	13,722	14,021	298	2.2	13,662
有形固定資産	12,172	12,378	205	1.7	12,211
無形固定資産	49	108	59	118.1	51
投資その他の資産	1,499	1,534	34	2.3	1,400
繰延税金資産	127	59	67	53.2	18
その他	1,399	1,493	94	6.7	1,399
貸倒引当金	27	19	8	30.4	16
資産合計	30,331	31,777	1,446	4.8	29,726
(負債の部)					
流動負債	5,244	4,933	311	5.9	4,413
支払手形	335	274	61	18.3	303
買掛金	3,068	2,886	181	5.9	2,300
未払金	862	502	360	41.8	492
未払法人税等	447	731	283	63.4	791
その他	530	538	8	1.6	526
固定負債	829	1,054	224	27.0	795
預り敷金保証金	151	179	27	18.2	157
退職給付引当金	45	189	144	319.9	1
役員退職慰労引当金	256	262	6	2.4	260
再評価に係る繰延 税金負債	376	422	46	12.3	376
負債合計	6,074	5,987	87	1.4	5,209

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月 期第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月 期第3四半期末)	増 減		(参考)前期末 (平成19年3月期 末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(純資産の部)					
株主資本	1,405	1,405			1,405
資本剰余金	1,304	1,304			1,304
利益剰余金	27,756	29,306	1,550	5.6	28,005
土地再評価差額金	6,275	6,275			6,275
その他有価証券評 価差額金	83	67	15	18.8	80
繰延ヘッジ損益					13
自己株式	17	17	0	3.2	17
純資産合計	24,256	25,790	1,533	6.3	24,516
負債・純資産合計	30,331	31,777	1,446	4.8	29,726

(2) (要約) 四半期損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月 期第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	増 減		(参考)前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	34,077	35,359	1,282	3.8	44,421
売上原価	23,582	24,302	719	3.1	30,829
売上総利益	10,494	11,056	562	5.4	13,591
販売費及び一 般管理費	8,050	8,365	315	3.9	10,623
営業利益	2,444	2,690	246	10.1	2,968
営業外収益	317	382	64	20.4	400
営業外費用	121	188	66	54.8	148
経常利益	2,640	2,885	244	9.3	3,220
特別利益		77	77		10
特別損失	244	9	234	95.9	232
税引前四半期 (当期)純利益	2,396	2,952	556	23.2	2,998
税金費用	1,043	1,288	244	23.4	1,238
四半期(当期) 純利益	1,352	1,664	311	23.0	1,760

(3) (要約) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期第3 四半期)	当四半期 (平成20年3月期第3 四半期)	(参考)前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	916	2,408	399
投資活動によるキャッシュ・フロー	601	631	811
財務活動によるキャッシュ・フロー	750	727	787
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	98	
現金及び現金同等物の増減額	2,284	950	1,229
現金及び現金同等物の期首残高	6,324	5,095	6,324
現金及び現金同等物の期末残高	4,040	6,045	5,095